

外部検討会用記載様式

課題 NO. 1

課題名「水田フル活用」に向けた土地利用型経営体によるえだまめの産地育成

計画期間 令和3年度～令和4年度

担当チーム員 ◎佐藤泰久, 濁沼小百合, 我妻謙介, 菊池光洋, 後藤佳彦

対象名及び対象数 農事組合法人大地・西荒井(構成員7名), 斎下生産組合(組員7名)
2経営体(JA古川えだまめ生産者9経営体)

1. 背景・ねらい

- ・市場等の要望を受け、大豆産地であるJA古川が6年前から作業機械や栽培技術などの有利性を活かして、地域の大豆生産者と一緒に生産拡大に取り組んでいる。
- ・栽培における課題は、難防除雑草と病虫害被害で、特に収穫前に雑草の手取りが必要になるなど品質低下や作業の遅れに繋がっており改善が必要である。また、産地として市場に認知してもらうためには、出荷量の増大が求められており、そのため生産性の向上や安定化に向けた、えだまめ独自の栽培技術の習得が必要である。
- ・作付面積拡大のためには、農業経営に優位性があることを理解してもらうため経営指標を作成し、農業者等へ説明することで、栽培面積の拡大や新規栽培者の確保を図る。加えて生産者の収益を高めるため、販売戦略を構築し、販売力の強化と有利販売に向けた取り組みが必要である。

2. 令和4年度これまでの活動内容

活動項目	活動内容	成果等(対象の動きや意識の変化等を含む)
古川えだまめ栽培技術確立支援 (播種日の分散による収穫時期の調査, 葉面散布による増収技術の定着, 雑草防除体系の確立)	栽培講習会において、適切な病虫害防除や除草剤の効果的な使用について指導した。 除草剤については無処理区を設定し、残草調査を行い効果の確認を行った。 対象農家の作付品種変更により収穫時期の分散の確認はできなかったが、JAからの依頼により、早生新品種の調査、葉面散布の効果実証を行った。	適切な病虫害防除等栽培技術が向上した。 除草剤の高い効果により手取り除草の負担低減が期待される。 早生品種は湿害で生育は不良であったが、調査により品種特性を把握することができた。 水害等もあり生育は例年より悪い。排水対策について意識が高まっている。
古川地域における経営指標の作成	対象経営体に今年度の計画の説明し、作業記録や収支の記録の提供を依頼し、同意を得た。調査時等、随時作業スケジュール等を確認した。	生産法人では本年度より大豆部門と区分する記帳とした。

<p>古川えだまめ販売力強化に向けた活動</p>	<p>J A 古川に対して、販売力強化のための視察研修開催や、作付推進のための資料配付について提案を行った。仙台普及センターから依頼のあった視察受け入れについては7/12に実施。研修会開催について、JAに実績検討会開催時の実施について打診。</p>	<p>令和4年度の作付面積は子実用トウモロコシへの転換等もあり6経営体6haに減少した。視察研修については大郷町を検討したが、水害等により断念した。県主催研修会の内容を実績検討会時に情報提供することを検討する。また、園芸アドバイザーを活用した研修会を実績検討会開催時に行うことを、提案した。作付推進資料の配付は5月の計画であったが、効果的な時期や大豆生産者への周知時期等を考慮し9~10月に変更した。</p>
--------------------------	--	--

3. 活動状況



4月8日, 枝豆栽培研修会



5月23日, 生産組合への説明



5月6日, 陽恵播種



7月12日, 大郷町視察対応会



7月12日, 残草調査



7月13日, 枝豆現地検討会

外部検討会用記載様式

課題 NO. 2

課題名 ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大

計画期間 令和4年～令和5年

担当チーム員 ◎永田悦祈, 佐藤浩也, 漆山喜信, 菊池光洋, 小宮なぎさ

対象名及び対象数: JA加美よつばねぎ部会若手生産者3人, (株)清流しかま, タカノ一産業(株)

1. 背景・ねらい

- ・加美町, 色麻町は秋冬ねぎの指定産地で, 主な生産者である JA 加美よつばねぎ部会 (77 人) の令和2年の販売金額は1.7億円, 栽培面積は55haとなっている。
- ・地域では, 積雪前の11月にねぎを掘り上げてハウスに移植し, 12月から2月にかけて順次出荷する冬越し囲い栽培が行われており, 特に若手生産者は意欲的であり, 適正品種の選定や貯蔵中の品質維持等の総合的な技術支援が必要である。
- ・また, 部会では環境にやさしい栽培技術への関心の高まりから, 混合堆肥複合肥料の使用が広まっており, 体系的な施肥技術の確立に向けて, 技術的な支援が必要である。
- ・農地整備事業後の暗渠が老朽化したほ場を中心に, 湿害による生育不良や中耕等の管理作業が適期に実施できず収量が低下する等の問題が発生しており, 排水対策が必要となっている。
- ・さらに, 地域の法人経営体は, 個別農家からねぎの調製作業を請け負うなど, 産地の維持に大きな役割を果たしており, 地域のねぎの安定生産のためには, これら法人の経営安定化に向けた支援が必要となっている。

2. 令和4年度これまでの活動内容

活動項目	活動内容	成果等(対象の動きや意識の変化等を含む)
囲いねぎの技術習得支援	冬越し囲いねぎの品質向上に向けて, ほ場での品種選定, 肥培管理, 病害虫防除等についてアドバイスを行った。 有機肥料等使用による根張りの向上を生育調査により確認し, 対象者とともに検討した。	高品質の囲い栽培の実証に向けて, ほ場での有望な品種選定が行われ, また施肥や病害虫防除等への意識が高まった。 有機肥料の使用が根張りを向上させる可能性と, それが品質に及ぼす影響について関心が高まり, 対象者とともに調査を行っている。
混合堆肥複合肥料の導入支援	使用する肥料の散布量や作付する品種について決定した。 散布にかかる作業時間を測定し, 労力面の課題を整理した。	品種によっては混合堆肥区の生育が化成区よりも遅れたことが観察されたため, 散布時期等の見直しを指導した。 成分濃度が低い混合堆肥は散布量が多くなるため, 地域での波及を狙うためには, 散布労力を軽減する方法についてさらに検討する必要がある。
排水改良対策の実践支援	地域内のねぎ生産者を対象に排水対策研修会を実施した。 対策後の水はけについて, 生産者との確認と, 機器を使ったデータ収集を行った。	排水対策研修会に参加することで排水対策の必要性や作業の要点について理解を深めることができた。 排水対策によって, 例年湿害が発生していたほ場においても排水性の改善が確認できた。生育の改善を, 対象者が実感する事ができ, 継続的な取組に繋がると思われる。

GAP の実践支援	巡回の中で GAP 実践までの日程の確認を行った。	作業に追われて社内での話合いが進んでいないことが分かった。取得に向けて、勉強会等の開催についての大まかなスケジュールを作成した。
-----------	---------------------------	--

3. 活動状況



8月19日 困いねぎ栽培の品質向上に向けたほ場管理の確認



4月21日 排水対策研修会 参加者（市町村，JA加美よつば，県研究機関，ヤンマーアグリジャパン）



随時 タカノ一産業株式会社の GAP 取り組み状況の確認



8月19日 混合堆肥複合肥料散布にかかる労力の確認

外部検討会用記載様式

課題番号 No. 3

課題名 直売所と連携した中山間地域でのぶどうの生産・販売

計画期間 令和3年度～4年度

担当チーム員 ◎小林雅文, 石黒裕敏, 伊藤吉晴, 津田花愛, 後藤佳彦

対象名及び対象数 管内シャインマスカット導入者 18人

(JA加美よつば組員 5人, あ・ら・伊達な道の駅出荷組員 13人)

1. 背景・ねらい

- 管内のぶどう生産面積は4.1haで、主に水稲育苗ハウスで栽培されているが、販売を行っている生産者は少なく自家消費されている割合が高い。
- 近年ぶどう栽培への関心の高まりから新植する生産者が増えている。
- JA加美よつばでは果樹の生産振興を図っており、特にぶどうに関する講習会等への参加者は相当数あるものの、自家消費が多く直売所等への出荷者は少ない。
- あ・ら・伊達な道の駅（以下、あら伊達という）では近年人気の品種「シャインマスカット」等の購入需要は高いものの、生産、出荷が少ない状況のため、直売所として生産拡大に向けた独自支援を行っている。

2. 令和4年度これまでの活動内容

活動項目	活動内容	成果等(対象の動きや意識の変化等を含む)
既栽培者の販売に向けた技術支援 ・商品として販売可能な果実生産に向けた技術指導。	商品としてのシャインマスカットを販売する場合、無核化処理や房づくりなど適期に手をかける必要があるが、無核化処理については集合研修会を実施し、その適期や手順について確認した。 また、房づくりについては園芸協会主催の栽培講習会への参加や巡回指導会を通じて理想的な房づくりへ向けた指導を行った。	同じ地域でも生産者毎に生育が異なるが、無核化処理の適期について判断ができるようになった。 また、房づくりについては、あら伊達出荷者13名が参加した園芸協会の研修会での実習や巡回指導時における指導により技術習得が図られた。 9月7日現在で今年度新たに出荷する生産者はJA加美よつば管内1、あら伊達出荷者1となっている。
新規栽培（未販売）者等への技術支援 ・理想的な樹形形成に向けた技術指導	巡回指導会を行い、理想的な樹形についてイメージ付けを行うとともに、不要な主枝クラスの本太枝の整理等の指導を行った。 また、副梢の整理等夏期の新梢管理について指導を行った。	本格的な樹形づくりのための作業は冬期のせん定時になるが、各生産者に対し理想的な樹形をイメージさせる事ができた。
販売に向けた課題解決検討 ・販売形態の検討 ・生産者の研究組織の設立	4月にJA加美よつば園芸課、(株)池月道の駅地域振興部と生産者の組織化や生産者の出荷誘導に向けた打ち合わせを行った。 また、あら伊達の生産者組織結成に向け、活動内容等規約の作成支援を行った。 販売に向け、出荷時の規格等に関する資料を作成しJA加美よつば生産者、あら伊達出荷者に配布した。	(株)池月道の駅の出荷者で出荷組合の野菜・果樹部会内組織として「あ・ら・伊達な道の駅果樹栽培プロジェクト」が結成された。 あら伊達出荷者に対しては、今後このプロジェクトを対象にぶどうの生産振興を図っていく。
<共通項目>	防除暦の作成、配布を行い、管内で発生する可能性のある病害虫とその防除方法について指導を行った。	一部にハダニや褐斑病の発生が見られたが、これまでのところ、収量・品質に影響を及ぼすような問題となる発生は見られない。

3. 活動状況



5月13日無核化处理前の花房整形日
(JA加美よつば)



5月24日無核化处理に関する講習会
(あ・ら・伊達)



7月5日花房整形に関する実習(県園芸協会主催)



9月1日着色調査(JA加美よつば組合員)

外部検討会用記載様式

課題 NO. 4

課題名 下真山地区における農地整備事業を契機とした地域農業の発展

計画期間 令和3年度～令和4年度

担当チーム員 ◎泉澤弘子, 櫻田英子, 漆山喜信, 門脇正好, 阿部玲佳

対象名及び対象数 下真山地区担い手候補者13経営体(法人経営体1法人・個別経営体12経営体)

1. 背景・ねらい

- ・中山間地域の大崎市岩出山下真山地域は不整形な水田が多く、大型機械の乗り入れが出来ない等、効率的な営農が難しい状況にある。また、現在の地域の中心担い手は高齢化しており、将来に渡り農地を維持していくことへの不安が年々大きくなっている。
- ・将来に渡り農地を維持・発展していく地域の営農体制づくりをするために農地整備事業を契機として効率的に営農が可能な農地を確保し、また若手生産者を中心とする経営体づくりによる農地の集積や高収益作物の作付けを支援する必要がある。

2. 令和4年度これまでの活動内容

活動項目	活動内容	成果等(対象の動きや意識の変化等を含む)
地域営農の担い手育成	<p>推進会議・4役会議に参加し地域の合意形成に向けて支援を行った。</p> <p>また、全地権者に対して情報共有が不十分であったため、関係機関が連携して(NN部・市役所・岩出山支所)、農地整備事業に関する下真山地域の情報を共有するため「しもまやま通信」の作成支援を行った。</p>	<p>推進会議・4役会議に出席し助言をすることで、これからの各地区への働きかけ方や手法についてについて、推進委員から多くの意見が出された。</p> <p>また、推進委員会が地権者全戸に対して「しもまやま通信」を活用しながら情報提供することで、農地整備事業に関する理解が図られた。</p>
法人化支援	<p>担い手に位置づけられた経営体を巡回し、法人化に向けた聞き取り調査を行った。</p> <p>また、担い手部会会員を中心に法人化に向けた研修会を開催した。</p>	<p>聞き取りから地域ごとの問題点や課題が明らかになった。</p> <p>研修会に参加することで、法人化に対する基本的な疑問が解消された。今後は地域特有の問題点について地域ごとに勉強会を開催し、今後法人化に向けて準備を行うこととなった。</p>
高収益作物の栽培支援	<p>担い手部会会員を対象に、地域ごとに作付けする高収益作物について話し合いを開催し、重ねた結果栽培品目が決定した。</p>	<p>品目が決まったことで担い手の意欲が高まった。</p>
地域ぐるみの野生鳥獣害対策	<p>昨年度設置した防護柵の設置状況を確認した。</p>	<p>今後、地域内での被害状況の確認とワイヤーメッシュ柵の効果を確認することとした。</p>

3. 活動状況



4月12日 推進委員会



5月26日 担い手部長聞き取り調査



6月24日 高収益作物についての話し合い



8月17日 専門家派遣による法人化研修